

帯広市図書館の視察について

		委員名	吉岡委員、宮田委員、三石委員
1 施設名	帯広市図書館		
2 視察日時	令和 4 年	12 月	15 日 (木) 13:00~15:00
3 対応者	帯広市教育委員会 生涯学習部 生涯学習文化室 図書館 館長 石津 邦久氏 同 係長 大林 美樹氏		
4 調査メモ			

(1) 施設の現状と課題

○建物 H17建設 H18開館。Wi-Fiは帯広商店街から同じ回線をつないで、利用者に無料で提供している。蔵書数は約50万冊。障害者トイレにユニバーサルベッド有、駐車場に障害者用(3台分)有。

○職員 正規職員11名、司書資格者(会計年度任用職員)20名、パートタイム会計年度任用職員18名

○課題 ・利用者が固定化されている。・他施設との連携 ・コロナ禍前と比較して、利用者や貸出冊数の減少がある(R2から電子図書館を始めて少し改善されているが、コロナ禍前には戻っていない)。・令和4年度「読書アンケート」の集計結果では、読書が好きと答えた小学生が73.4%と、前年比で11.3%減となっている。本以外に興味関心がある人が多く、その中で図書館に来てもらえるような工夫・取組を行っている。(ミッション形式で、達成すると報酬がもらえるもの。ガチャガチャの箱をボランティアが作成)

(2) デジタル社会への対応

○要因・背景 コロナ禍に伴う利用者・貸出冊数の減少

○具体的取組

・帯広市の商店街と連携した館内Wi-Fi回線の整備 ・館内タブレットコーナーの設置 ・電子図書館サービスの開始(帯広市のLINEに電子図書館タブ有) ・資料のマイクロフィルム化(デジタル化) ・Webおはなし会・Youtubeチャンネルの開設及び動画配信・図書館Twitterの毎日更新

○成果 利用者の利便性向上

(3) 障害者の生涯学習の推進(実施事業、ハード面の工夫、学習情報の提供、人的支援体制等)

・移動図書館の活用

・CDブック、音声ガイド付き映画、大活字図書、録音図書の活用

・赤外線補聴システムの視聴覚室完備、出入口音声誘導装置

・障害者の自宅への宅配サービス

・ボランティア団体(友の会)によるハンディキャップサポートの取組(対面朗読)

・広報・市民文芸・ジュニア文芸を声に吹き込んで貸し出している。(翻訳グループさざなみ)

(4) 他部局(保健福祉、防災、まちづくり、学校教育等)との連携

・企業や団体と連携し、雑誌スポンサー制度として、購入代金を負担していただき、9者22誌と契約。

・生涯学習や社会教育施設との連携講座や資料収集

・市民文芸賞を実施。優秀作品を帯広市内の高校・帯広畜産大学の図書館に読み聞かせをしてもらい、

Webでおはなし会として動画を作成してもらった。帯広畜産大学と連携した講座も実施している。

・ぶっくーる便として、学校からの要求に応じ、本を貸し出ししている。

(5) 職員研修の方法や内容

・研修ではないが、日常的に職員間で対話を行い、サービス向上について話し合っている。

(6) その他(住民の主体的な社会教育の促進、市政上の役割、新たな取組や構想など)

・地域の課題に対応したサービスとして、ビジネス支援、健康・医療、食文化の情報コーナーを設置。

・帯広市では、経費面について、他との連携により広告収入で資金を得ようとする動きがある。

・国での子どもの読書活動推進に関する法律をうけ、子どもの読書活動を推進するための計画を市で作成。

・乳幼児向けのサービスとして、市民のボランティアが話し手となつての「お話し会」を定期開催しているほか、絵本との出会い事業(ブックリストの作成)、子育て応援バッグ(絵本リスト)、子どもの映画会(大人の映画会もあり)などを実施。